

¡Hola, amigos!

第069号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、日本の友人・知人の皆さんに私達の近況をお知らせする手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。

更新は、なるべく毎週、日本時間の金曜朝05:00から07:00時に実施する予定です。臨時休刊の場合は前もってお知らせするつもりです。

なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のは順次削除します。

では、今週号へどうぞ。 2005年07月15日 カァディスにてR y N

☆今週号のトップヘジャンプ

現在有効なバック・ナンバーは068号(07月08日)、067号(07月01日)
066号(06月24日)の三週分です。各週のトップにあるボタンからどうぞ。



***今週号* No. 069 (2005年・第29週)** 07月15日更新

「オーンセ・デ・ベラーノ」の巻

ロンドンの騒ぎでは多くの方からnは大丈夫?とご心配いただきました。どうもありがとうございます。肝心のオヤの私達は何の心配もせず、アッケラカンとしていたのはちょっとマズかったのかな? ノーテンキな親でどーもすみません。

まあ、私達はnの懐具合は良く分かっているので、平日の朝、仕事をサボってロンドンへ遊びになんて行くわきゃないわな、と高を括っていたのです。そのnは今、夏の休暇を取って遊びにきています。BFつきです。私達も何かと忙しい。

オーンセ・デ・マルソ (去年3月11日のマドリードのテロ) の時もたまたま休暇で前のベナルマデナの家に来ていました。ナイン・イレブンのときは私達はまだ藤沢でしたが、そのときもほんの2~3日前にイギリスから帰ってきていました。

なにやら、不思議と彼女の休暇の時期とテロ事件が前後するようです。それだけテロ騒ぎが多いということでもあります。

まあ、でもドンピシャその日に移動していなかったのは幸いです。その当日の空港の警備の厳しさや、それによる混雑状態は考えるだけでもウットウしいですね。

イスラム世界を、ごく少しですが、体験的に知っている者としては、これらのテロについて言いたいことは山ほどありますが、このページでは政治と宗教に深く関わらないことをムネとしたいので、発言は差し控えます。

さて、今日のテーマのオーンセですが、これはオーンセ・デ・マルソとは何の関係もありません。オーンセ・デ・マルソのオーンセは once で数の11、即ち(3月の)11日のことです。今日のテーマの方は O.N.C.E. スペイン盲人協会およびその組織が発行する宝くじのことです。



日本でもサマー・ジャンボの季節ですね。皆さん買ってますか？

オンセ・デ・ベラーノはまさにそれで、ベラーノ verano 夏の、エクストラオルディナリオ extraordinario 特別クジです。左上のスイカの絵柄のクジがそれですが、絵の下のほうにご注目。14 MILLONES DE EUROS と書いてありますね、1400万ユーロ、約19億円。8月15日の発表が待ち遠しいー。

左下は去年の秋、オトーニョ Otoño の、エクストラオルディナリオです。もちろんハズレくじ。秋ジャンボでさえ1100万ユーロ、15億円です。では、年末は？残念ながら、私達はまだ年末ジャンボは買ったことなくて知らないんです。もう三回も年末をここで過ごしているのに、なぜでしょう。われながら不思議な気がします。右上は私達が一番良く買う毎週金曜日発表のもの、ビエルネス・クポナーソ viernes cuponazo 金曜クジです。一等は六百万ユーロ、約8億円。

そして、最後右下が日替わりクジ、一等もササヤカ？に30万ユーロ、4千万円。

クジの値段はそれぞれ大きいほうから5、4、2.5、1.5ユーロです。

一等賞金額が三桁ごとコンマでなく点で区切っているのに気がつきませんか？ 小数点にはコンマを使います。日本では反対ですよ。でも広辞苑を引くと、コンマは小数点の意味でもあるそうです。成る程小さいことを「コンマ以下」といいますね。

私達は普段、金曜クジを隔週に一枚だけ買うことにしています。一等の組違いが二等ですがオーンセには前後賞はありません。だから買うのは一枚だけ。



こんな風に街角のあちこちにオーンセのクジ売りボックスがあります。そのほか、絵を描くのに使うイーゼルみたいなスタンドにクジを飾って道端で売っている人、サンドイッチマンのように胸の前に何十枚かのクジをぶら下げて売り歩く人もっと安直に片手に持った紙バサミにクジをはさんで電車の中や飲食店、銀行の中までさえ売りに来る売り子もいます。ボックス以外の売り子はほとんどヤヤくたびれたオッサンが多い。

私達が買うのは上の写真のようなボックスでだけ。こういうスタンドの中にいる人は弱視の人や片目の不自由な人が多いようで、中には全く見えない人も。家族らしい人が介添えでついていることもあります。全く眼が見えなくても一人で売っている人もいます。そんなときは、ウィンドウに飾ってあるクジの中から金額と自分が欲しいナンバーを言って取ってもらいます。そのナンバーがどこにあるかを全部きちんと覚えているところは立派です。

時々 ¡Buena suerte! ブエナ・スエルテ（幸運を・・・）といってくれる人もいてうれしくなります。



私達はオンセのクジしか買ったことがないんですが、このほかにも宝くじはいろいろな団体が仕切っています。オンセは盲人協会発行ですが、聾啞協会の宝くじ、国営宝くじ、そのほかにいったいいくつあるのか、全部は知りません。国営クジはロテリア *lotería* という宝くじ専門ショップで売っているようです。

全般に言えることは賞金額が日本に比べるとかなり大きいこと。所得格差や物価の差を考えると金額の違い以上の開きがあります。

変わったところでは、上の写真のポスター。これは Cruz Roja 赤十字発行のもので一等はなんと200キロの金です。でも金塊200キロを貰っても私達にとっては困った賞品です。小額ではあってもやっぱりキャッシュが一番。

今年のサマー・ジャンボはいまダブル招き猫が番をしています。これまでの所こいつほとんど役に立ってないんですけどね。今までの当りクジ最高は下2桁の6ユーロ。

タノムゼ猫ちゃん。***



「渚でチョコを拾う」の巻

チョコを拾うたって「チョコレートを拾う」じゃありませんよ。第一「渚で」では海水で濡れちゃってるだろうし、仮に落ちていたって、とてもそんなもの拾う気には

なれません。このチョコはいつかもお話したことがあるセピアの小さいやつ。

セピアというのは「セピア色の風景」などと言うあのセピアです。セピア色というの

は、もともとこのイカの墨を使った絵の具なんだそうです。

セピアとは標準和名ではコウイカ。関東ではスミイカ。関西ではやはりコウイカでしょうか？ ここに関西出身の人がいるんですが、モンゴイカかな？なんて言っていて、あやふやです。関東では、少なくとも釣師は、スミイカと呼びます。このセピアの小型のもの、胴長15センチ位までのものをここではチョコ choco と呼ぶようです。

まあ、名前はともかく、この烏賊を捕まえたんです。生け捕りです。なんとマヌケな

鳥賊がいたもんですね。

先週末の夕方、いつもの通り、大西洋ウォークをしました。

その日は朝いろいろやることがあったので午前中の散歩は取りやめ、日没前、浜がすいてきた頃を見計らって出かけたのです。Rは膝上ぐらい、Nは少し離れて膝下ぐら

いの深さを雁行していました。そしていつもよりちょっと遠くまで……。

眼の端、波の砕けたあたりにチラッと何か黒っぽい物が動いたような気がしました。

藻かな？ いや、どうも違ったみたいだ。とりあえずその沖側に回り込みました。

ウハーッ、スミイカじゃないか。持っていたビーチサンダルはNのほうに放り投げ、

間髪をいれずにムズ。お見事！ ナイス・キャッチ！ チョコの生け捕り！

東京湾のスミイカ釣もやったし、外国で沖待ち中、魚を釣っていてこれが針に掛かっ

た事も何度かありました。でも素手で掴み捕ったのは初めて、我ながらビックリ。

それにしても、なぜ、こんな波打ち際でマゴマゴしてたんでしょうね。胴の皮に少し

傷があったくらいで、食いちぎられたところもなかったし、掴み取ったときは元気に

水を吹いていました。もっとも、スミイカ特有の盛大な墨吹きはなかったのも、とっ

くに墨は吹き尽くしてしまったらしい。やはり何かに追われてたんですね。カメラ

がなかったのが残念。水を吹いているところをお見せできたのに……。

もう、散歩どころじゃありません。すぐ帰って、久しぶりに、サシミだー！

帰る途中、砂浜に竿受けを突き刺して投げ釣りの支度を始めている釣師がいました。

海水浴シーズン中は日中の釣は禁止なので、釣師も日没近く、海水浴客が帰り始める

のを待って支度を始めるのです。

彼は、ぶら下げているチョコを目敏く見つけて近づいてくると、イヤー、やったね、

と祝福の握手。そして、抜け目なく、この足貰っていいかナー、いい餌になるんだよ

ねー、と長い二本の足を指差します。

イイヨー、と気分良く幸運のおすそ分け。うれしそうに鉈を取り出してチョコキン。

いい魚、釣ってネー。アスタ・ルエゴ（またねー）。

これが、そのチョコ。胴長13センチ。どうです、活きがいいでしょう？ そりゃー

そうですとも、さっきまで泳いでたんだから。



今日のセナ cena 夕食はモルシーヤのブルー・チーズ焼きとポテ・グラの予定だったので、散歩に出る前に赤の栓を抜いておいたんですが、急遽、白も追加。手前のサシミはコリコリ、ゲソのバタ焼きも申し分なし。スペインで食べた刺身じゃ一番旨かったナー。今日は予定外でちょっと呑みすぎちゃったけど、マッ、いいか。***

「カアディス・夏姿」の巻

先週に引き続き、浜の話題です。

去年の夏、Nはベナルマデナで暑い暑いと言っていました。

最初にカアディスに遊びに来たのはオトシ6月末、家探しを始めたのは去年5月。夏の間、カアディスでは私達の望むような物件の出物はない、と言われていたので、去年の7月・8月はベナルマデナにこもってジッとしていたのです。ですから私達にとって真夏のカアディスは初体験です。

夏なんだからどこに居たって暑いのはあたりまえ。陽射しの強さはなんといってもアンダルシア。でも、普通の日には日が昇るとすぐ海風が吹き始め、窓を開け放った部屋の中にいるとRには寒いぐらいで、五本指ソックスをしっかりといてジャンパーを引っ掛けることもしばしば。そんなときはさすがのNも暑いとは言いません。

ところが、気圧配置しだいでは内陸からの東風が強く吹くことがあり、そうなるといけません。内陸の熱く焼けた地面を吹き渡ってきた乾燥した空気が熱風となります。そして、天気図上で東の強風が吹く筈のときには、なぜか私達のいる辺りでは南東風

に変わっています。地形的な変化か、周りのビル群の影響か・・・。

とにかく、こういうときは、その熱風が入らないように風上の裏側の窓を閉めて、ジッとしているに限ります。風上の窓を閉めたら暑いんじゃないの？と思うでしょうが、サにあらず。私達の部屋は10階、日本式に言えば11階ですから、地面からの照り返しはほとんどありません。加えて大理石の床、穴あきレンガの壁、のおかげで部屋の中はヒンヤリしているのです。部屋の中に熱のこもるようなものは皆無です。私達の部屋にはエアコンはありませんし、その必要性も感じません。地上階から4～5階位までではクーラーの室外機が見えるウチもありますけどね。

有難いことに、こういう熱風は長くは続かず、次の日はまた涼しい海風復活です。天気番組を見ているとマラガ地区より涼しい日が圧倒的に多い。Nもこれでは文句はないはず。でもやはり日中は時々「暑い！」と言ってます。幸い、夜暑くて寝苦しいという経験はまだありません。海風の日には日没と同時に急速に冷えます。



ある日、右手の浜でなにやら工事が始まりました。ナンだろう。野外コンサートでもやるのかな、と思ってました。こりゃー、楽しみだなー、と。



これが出来上がり。どうやらステージではなさそう。それに向こう向きでちょっとがっかり。フラメンコの夕べ、なんてのを期待してたんですけどねー。ロックだってナンだって、音楽なら部屋からでも言葉抜きで楽しめるのに・・・。



前へ回って見ると、この通り海浜シネのスクリーンだったんですね。 私達はこれまでこんなに浜に密着した生活はしたことなかったのので、日本の夏の海水浴場の夜なんて全く知らずにいましたが、こんなこともやってたんでしょうか？

浜の清掃といい、救護に対する備えといい、こんな風な娯楽の用意といい、市当局が市民や観光客にこの浜を十二分に楽しんで貰おうとしている事が良く分かります。



映写機の台を据えたクルス・ロハ(赤十字)の救護所の前にはこんな看板が出ていました。 広告の下に見える白い紙には手書きで、「次の土曜 22 : 30」。



そして、その土曜の夜、日没頃から既にこの通り人が集まりだしました。夕涼みがてら早目に座り込んで、いい場所を確保しようというわけ。夏の間、浜には日没と同時に明るい照明がとまり、こんな風に昼のように明るいのです。

私達も見に行きたいのは山々ですが、悲しいかな既に見たことのある映画でないと何かなにやら見当もつきません。今夜の出し物は全く知らない映画でNG。

仕方なく冷えたヘレス(シェリー)のコパをもってベランダで夕涼み。涼しい海風がそよそよ。この時期、右手、太陽の沈んだほうから順に金星・木星・アンタレス(さそり座の α)が見えます。

22時30分。なかなか照明を消しません。映写機の周りに数人が集まっています。なんかトラブルらしい。数分後やっと照明も消え、いよいよ始まりました。と、思ったら、ワーッというブーイング。中断です。まあ、タダなんだからシャーないか。まだ本筋に入る前だったのがせめてもの救い。更に数分後、今度はどうやら順調に始まった様子。こうして、浜の夜は更けてゆきます。



これは、或る朝のウチのまん前の遊歩道。孫連れの若いオーバーちゃんとお話しながら歩いてる青シャツ・サングラスのオニーさん、それにその隣、おそろいの風体で後ろ手のオジさん。彼らはどういう人だと思いますか？

これ、ポリシア・ロカール(カアディス市警)の夏の制服です。いいですねー、短パンにスニーカーのオマワリさん。初めて見たときはアツと思いました。

この写真ではよく見えませんが、ちゃんと拳銃はホルスターに収まっているし、若い方は警棒も吊って、左肩に無線機のマイク・スピーカーもつけてます。でも、制帽なんかはずしちゃって警棒の頭に引っ掛けているし、年かさのほうははじめっからかぶる気はないらしく、持ってさえいません。パトロール風散歩だなーこりゃ。

まあ、しかし、こんな風にリラックスしたオマワリさんを見るとホッとしますねー。マドリードやロンドンで爆弾騒ぎがあろうがどこ吹く風。ここでは厳戒態勢なんて言葉は似合いません。

次の写真は、映画の看板が張ってある赤十字の救護所の向かいにある海浜派出所ですが、その入り口をふさいでいる男達は何者だとおもいますか？



座っている男は茹でエビを売ってるんです。そして立っている二人は浜の呼び売り屋で、多分自分達もエビを売って歩こうと、座っている男からいくらか仕入れようとしている、らしい。まあ、それはどうでもいいですが、警察の派出所の入り口ですよ。

こんなところに堂々と座り込んで店開いちゃって、いいモンでしょうかねー。
スペインは7月に入って社会人も夏のバカシオネスに入った人が多いらしく、車での移動人口が増えているようです。ニュース番組では必ず幹線の交通情報が流れます。となれば当然事故も急増。先週末には40数名の人が亡くなったと報じていました。なにしろ、事故現場へ救急車ではなく直接棺桶が来ちゃうほどですから、事故の程度も半端じゃありません。

この一週間、テレビはフィエスタ・デ・サン・フェルミンというお祭りで持ちきり。「日はまた昇る」のパンプローナの牛追い祭りです。白シャツ白ズボン赤いバンダナ赤い腰布を身につけた男達が、滑りやすそうな敷石道を牛を追って、というか牛と一緒に闘牛場まで疾走するという、まあ、「奇祭」ですね。死人・怪我人続出。
ロンドンのテロ事件はこの牛追いの初日と重なったのです。それ以来、明らかにロ

ンドンのテロ騒ぎより牛迫いの放映時間の方が長い。そして、この祭りで、今年は何人も何人死んだとか、まだ何人しか死んでないとかいう話題が、ロンドンで70何人ということより関心が高い、ように感じらるのです。

こういう国にどっぷり浸かっている私達が娘の心配をしなかったのも頷けると思いませんか？ こりゃ、言い訳にはならんかな？？ では、また。***

(このHPのスタイルについて)

もう既にお気づきと思いますが、今週で以前の形、即ち今週号とバック・ナンバー三週分のボタンが出そろいました。当分このスタイルを維持するつもりです。

また、表紙でもお断りしているように、バック・ナンバーの一番古いものは、新しく今週号を更新するたびに削除してゆきます。

毎週見て下さっている方は、表紙から今週号へ一回だけジャンプすれば終わりです。

前号以前のものにはいっさい手を加えませんから改めてチェックする事は不要です。

ところで、写真はどうか？ カメラの性能と腕は別として、標準的な解像度のディスプレイで見て下さっている方になるべく違和感のないように、当方の解像度を1152 x 864に設定して作成しています。

ですから高解像度(例えば15インチで1400 x 1050)のディスプレイで見ると画像がかなり小さく見えると思います。その場合、解像度の設定を上記の1152 x 864、または、1024 x 768に一時的に変えていただければ、当方で作成したとおり、またはそれに近い状態で見ただけだと思います。これとは別に文字サイズは適宜見やすい大きさに変えてください。MS明朝では見にくいですか？

このHPについて技術的な助言をはじめ、何でもご意見をお寄せいただけると、とてもうれしいです。RにでもNにでもメールください。お待ちしております。***
